

施策評価シート（平成28年度実績評価）

◎ 施策の基本情報

総合計画 中期プラン	政策No.	3-2	政策名	学校教育の充実	政策の 目指す姿	夢と希望を持ち、たくましくい きいきと育っています	施策 主管課	小中学校課	施策主管 課長名	沼田弘二
	施策No.	2	施策名	豊かな人間性の育 成	施策の 目指す姿	児童生徒が、郷土を誇りとし、自己肯定感や 思いやりの気持ちを持っています。	関係課名			
	現状と課題	・多くの人と触れ合う機会の減少や自然体験・社会経験の不足により、協調性・責任感・規範意識などが低下している状況か ら、人間としてのよりよい生き方について自覚を深め実践する児童生徒を育成する必要があります。								

1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組実績

(1)豊かな人間性の育成 ○国際理解教育の推進 ・小学校および中学校へ英語指導助手を派遣 ○道徳教育の充実 ・復興教育学校支援事業 ○地域体験学習の充実 ・地域の風土・資源・伝統・人材を活用した体験的な学習を支援 ○地域と連携したキャリア教育の推進 ○生徒会におけるボランティア活動に対する支援 ○芸術文化活動の推進 ・花巻市中学校文化連盟事業補助 ○児童生徒表彰 ・体育・文化等の活動において顕著な成果を収めた児童生徒を表彰

2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測 ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握す るのか)	単位	数値 区分	H23	H24	H25 (基準年度)	H26	H27	H28
					自己肯定感を持った 児童生徒の割合	岩手県学習定着度状況調 査では、質問紙調査を併せ て実施しており、設問内容 は自己肯定感を測る指標と して適当	質問に対して肯定的に回 答した児童及び生徒の割 合で測る。(小4, 5年の値 の和を求め、2で割る。中 1, 2の値の和を求め、2で 割る)	%	目標値	
親切・思いやりの心 を持った児童生徒の割 合	岩手県学習定着度状況調 査では、質問紙調査を併せ て実施しており、設問内容 は親切・思いやりの心を持 っているかを測る指標とし て適当	質問に対して肯定的に回 答した児童及び生徒の割 合で測る。(小4, 5年の値 の和を求め、2で割る。中 1, 2の値の和を求め、2で 割る)	%	目標値				小95.0 中91.5	小95.5 中92.0	小96.0 中92.5
				実績値	小73.5 中68.3	小71.7 中64.8	小75.5 中64.5	小78.0 中66.5	小78.0 中67.5	小79.0 中69.0
				目標値						
				実績値	小85.7 中86.0	小86.0 中86.0	小94.5 中91.0	小97.0 中92.0	小94.0 中94.0	小97.0 中96.0
				目標値						
				実績値						

3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
B	<p>■成果指標「自己肯定感を持った児童生徒の割合」・・・【達成度 小学校b 中学校b】 小・中学校ともに昨年度と比べて上昇しているが、目標値には達していない。各学校において事業を活用や日々の教育活動を通して、児童生徒の自己肯定感を高める指導が行われているが、まだ十分ではない。</p> <p>■成果指標「親切・思いやりの心を持った児童生徒の割合」・・・【達成度 小学校 a 中学校 a】 本市において不登校児童生徒が増加傾向にあることや、情報機器の普及による情報モラル教育の必要性など、児童生徒を取り巻く環境が変化中、復興教育学校支援事業や生徒会ボランティア活動支援事業等の成果が表れ、思いやりの心が育っていると考える。</p>

4 施策を構成する事務事業一覧

番号	事務事業名	担当課	施策への貢献度	
	事業内容(実績)		直結度	成果
1	小学生国際理解推進事業	小中学校課	A	-
	各小学校に英語指導助手を派遣(5・6年生を対象に1クラスあたり年間18時間)			
2	中学生国際化教育推進事業	小中学校課	B	-
	各中学校に英語指導助手を派遣(1クラスあたり年間12時間)			
3	復興教育学校支援事業	小中学校課	A	B
	心のサポート授業の実施(1校あたり1回) 働く方々によるキャリア教育授業の実施回数(1校あたり12回)			
4	防災教育学校支援事業	小中学校課	B	B
	機器を活用した避難訓練の実施回数(3回) 副読本や講師を活用した授業実施回数(15回)			
5	小学校地域体験型学習事業	小中学校課	B	B
	地域の風土・資源・伝統・人材を活用した体験的な学習を実施 (参加児童数:10,100人)			
6	中学校地域体験型事業	小中学校課	B	B
	地域の風土・資源・伝統・人材を活用した体験的な学習を実施 (参加生徒数:5,600人)			
7	生徒会ボランティア活動支援事業	小中学校課	A	B
	ボランティア活動を行う各中学校生徒会への活動支援(活動数:26)			
8	学校文化推進事業	小中学校課	B	-
	花巻市中学校文化連盟事業補助			
9	児童・生徒表彰事業	小中学校課	B	B
	体育・文化等の活動において顕著な成果を収めた児童生徒を表彰 (受賞者数:339人)			

5 施策を構成する事務事業の検証

<p>(①市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業、②投入コストのわりに成果が低い事業、③施策への貢献度の低い事業はないか) 新学習指導要領への移行に伴い、英語指導助手を活用した小学校国際理解推進事業及び中学校国際化教育推進事業を他の施策(学力の向上)へ移管する検討が必要である。</p> <p>(施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか) 事業の精選・焦点化の観点から構成事業を見直す必要がある。</p> <p>(新たに取り組むべき事業はないか) なし</p>

6 施策の総合的な評価

<p>(課題) ・自己肯定感を持った児童生徒の割合が目標をやや下回っていることから、各学校が児童生徒の自己肯定感を高める教育活動を展開できるような支援が必要である。 ・親切・思いやりを持った児童生徒の割合は目標を上回り、上昇傾向であるが、このよい傾向を維持していくための各学校の取組を支援していく必要がある。</p> <p>(今後の方向性) ・児童生徒が地域と連携したり、日ごろの活動の成果を称えることで自信を深め、意欲の向上が図られると考えられることから、地域連携事業や児童・生徒表彰事業を継続し、内容を充実させていく。 ・親切・思いやりを持った児童生徒を育成するため、復興教育やボランティアに関わる事業を継続しながら、必要に応じて構成事業の見直しを検討していく。</p>
